

令和7年度 埼玉県社会福祉法人社会貢献活動推進協議会

第2回 推進連絡会議

実施日	1月28日(水) Zoomによるオンライン
参加者	72名 (推進協会員施設・社協)
講師	長野保健医療大学 特任教授 北村 弥生氏



池田会長の挨拶

内容	
<p>今回の会議では、年々増加傾向にある事前災害時に、適切に対応するためには、平時の備えが重要であることを踏まえ、発災時に社会福祉法人として地域にどのように貢献できるか、また BCP 作成事に記載した地域との連携や訓練は実際どうしたらよいかという疑問を解決するため、長野保健医療大学 特任教授の北村弥生氏より講義をいただきました。</p> <p>当日は、参加者より事前にいただいた質問への回答や、明日からでも出来る災害対策についてお話いただき、参加者からも大変参考になったと意見をいただきました。</p>	
<p>2. 平時の業務だけでも手一杯なのに、災害時の準備まで手がまわらない</p> <p>(1) 災害時の業務の優先順位をどう考えるか 平時、仕事上の災害対応は、手一杯どころか、準備不足で対応している状況は多い。災害時の対応は、平時の業務とは異なり、迅速な対応が求められる。災害時の対応は、平時の業務とは異なり、迅速な対応が求められる。</p> <p>(2) 災害時の対応は、平時の業務とは異なり、迅速な対応が求められる。災害時の対応は、平時の業務とは異なり、迅速な対応が求められる。</p> <p>(3) 災害時の対応は、平時の業務とは異なり、迅速な対応が求められる。災害時の対応は、平時の業務とは異なり、迅速な対応が求められる。</p>	
参加者の声	
<p>・災害時に備えた訓練や地域との連携が BCP において欠かせない一方で、具体的に何から始めればよいのか分からないという現場の悩みに共感した。平時の業務で手一杯な中でも、まずは事業所内の被災リスクを確認し、避難場所や避難経路、避難方法を職員間で共有することが命を守る第一歩であると感じた。</p> <p>・地域の防災活動に参加し、防災施設や危険箇所を実際に歩いて確認することで、災害時のイメージがより具体的になると学んだ。人員不足の中ですべてを完璧に行うことは難しいが、できることから少しずつ取り組み、地域とつながりを持つことがこどもたちの安全につながると感じた。</p> <p>・実際の事例など含めて、BCP に関する研修事例も参考になった。</p> <p>・「要配慮者は地域の防災資源」という視点が印象に残った。また平時から地域とのつながりを意識して持ち、職員が日常的に備えを語り合えるような文化を作ること大切なことだという気づきを得た。</p>	